

世界天文年について

2009年は、イタリアの科学者ガリレオ・ガリレイが望遠鏡を夜空に向け、宇宙への扉を開いた1609年から、400年の節目の年です。これを記念し、国際連合、ユネスコ(国連 教育科学文化機関)、国際天文学連合は、この2009年を「世界天文年(International Year of Astronomy: 略称 IYA)」と決めました。

ガリレオは、400年前、発明されたばかりの望遠鏡を、世界で初めて夜空に向けることを思い至り、数々の発見をしました。月にクレーターがあること。木星に衛星があること。天の川は多数の星でできていること。金星も満ち欠けをすること。目に見えない星があることなどです。それまでの宇宙観を革命的に変えたこれらの発見を、ガリレオは熱狂的に著書「星界の報告」で述べています。ガリレオは、それまで神の世界だった天空を、人間が理解できる世界に変え、本当の地球の姿を宇宙的視点で捉えられるようにしたのです。

2009年は1年中「宇宙...解き明かすのはあなた」をスローガンに、世界の100を超える地域で、天文学者、教育者、天文ファン、そして子どもから大人まで多くの人々が、現代ならではの天文学的知識と、様々な手法で宇宙を見つめ、楽しめるような活動が行われます。